

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2016

課題番号：26380318

研究課題名（和文）非対称的な2国間のFTAの形成が貿易自由化に与える影響

研究課題名（英文）The effect of the formation of bilateral FTA between dissimilar countries on multilateral free trade

研究代表者

野村 良一（Nomura, Ryoichi）

立命館大学・経済学部・准教授

研究者番号：60465599

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、非対称的な国の間での自由貿易協定（Free Trade Agreement; FTA）の形成が世界全体の貿易の自由化（Multilateral Free Trade; MFT）に与える影響を検討することである。主たる結論は以下の通りである。(1)各国の市場規模が同じような場合、既存FTAの拡大（Expansion of FTA）によってMFTが実現するが、2国間FTAの重層的な形成（Overlapping FTAs）では実現しない。(2)各企業の意思決定が逐次的な場合、同時手番の場合と比べて、2国間FTAおよびMFTの実現可能性は低下する。

研究成果の概要（英文）：This research investigates the effect of a formation of bilateral Free Trade Agreement (FTA) between asymmetric countries on the feasibility of multilateral free trade (MFT). Main results are as follows: (1) Suppose that market scale of countries are similar. Expansion of FTA paves the way for MFT, although Overlapping FTAs does not. (2) As compared with Cournot competition, Stackelberg competition lowers the feasibility of a bilateral FTA as well as the attainability of MFT.

研究分野：社会科学

キーワード：FTA

### 1. 研究開始当初の背景

従来、貿易自由化に関する取り組みは最恵国待遇の原則に基づいて行われてきた。しかし、GATT / WTO の加盟国の増加などによって多国間での交渉が停滞するにつれ、特定の国・地域の間で地域貿易協定 (Regional Trade Agreement; RTA) が締結されるようになり、近年、その締結数は飛躍的に増加している。このような状況において、最恵国待遇の原則に抵触する RTA の増加が多国間での貿易の自由化 (Multilateral Free Trade; MFT) を促進するのか、あるいは阻害するのかという問題が指摘されてきた (例えば、Bhagwati (1993))。

急増する RTA の特徴として、(1)ほとんどが自由貿易協定 (Free Trade Agreement; FTA)、(2)多くが2国間での締結・交渉、(3)非対称的な国々間での締結・交渉、(4)ほとんどが新規の FTA、という4点が挙げられる (例えば、Fiorentino, Verdeja, and Toqueboeuf (2007))。このような特徴を踏まえ、本研究では、非対称的な国々間での2国間 FTA の逐次的な交渉・締結が、世界全体の貿易自由化に与える影響を明らかにすることを目的とする。

近年、日本を含めた多くの東アジア諸国が、従来の WTO における多国間交渉を重視する立場から、FTA の交渉・締結に積極的な立場へ移行している。こうした政策転換の背景には、他の地域における FTA の増加があると考えられる。このことは、FTA の締結・交渉がどのような国々間で、またどのような順序で行われるかを明示的に考察することの重要性を強く示唆している。また、先進国と途上国間の FTA の増加を考慮すると、各国の非対称性が果たす役割を考察することは、単に FTA の増加が各国に与える影響を明らかにするのみならず、今後の各国の通商政策の在り方、および WTO の役割を検討するうえでも有意義であると考えられる。

### References

- (1) Bhagwati, J. N., "Regionalism and Multilateralism: An Overview", in J. de Melo and A. Panagariya, eds., *New Dimension in Regional Integration*, New York: Cambridge University Press, 22-51, 1993.
- (2) Fiorentino, R. and V. Verdeja, and Toqueboeuf, C., "The Changing Landscape of Regional Trade Agreements: 2006 Update", WTO Discussion Paper, 12, 2007.

### 2. 研究の目的

「1. 研究開始当初の背景」で述べたように、本研究の目的は、非対称的な2国間 FTA

の逐次的な交渉・締結が、世界全体の貿易自由化に与える影響を明らかにすることである。急増する FTA に関する今日の特徴として、そのほとんどが2国間 FTA であり、また非対称的な国々による FTA が非常に多い点が挙げられる。

不完全競争市場での FTA に関する代表的な理論研究には、FTA の形成条件を考察したものや、既存の FTA の拡大の可能性を検討したものがある。また、2国間 FTA が逐次的に締結されているという今日の特徴を踏まえ Hub and Spoke 型の FTA 形成を取り扱った研究もあるが、それらの研究では国や企業に関して対称性の仮定が置かれている場合が非常に多い。先に述べた非対称的な2国間 FTA の増加という今日の特徴を鑑みると、市場規模や企業に関する非対称性を導入することは非常に重要であると考えられる。

本研究では、市場や企業に関する非対称性が2国間の FTA の形成や、逐次的な FTA の形成 (Hub and Spoke System) にどのような影響を及ぼすかを検討するために、以下の2点を中心に考察することを計画した。

- (1) 企業の非対称性が FTA の形成ならびに MFT の促進に与える影響
- (2) 内生的な技術選択が FTA の形成ならびに MFT の促進に与える影響

### 3. 研究の方法

これまでの研究において、3国3市場モデルを用いて、市場規模が非対称な場合に Hub and Spoke System の形成を通じて MFT が促進されるかを検討している (Nomura et al. (2013))。本研究においても、これまでの研究に基づいて、基本的には3国3市場モデルを用いた。

研究開始当初は、「2. 研究の目的」に示した2つの研究課題に取り組む予定であった。しかし、研究の進展状況や研究報告等を踏まえ、(1)各国の市場規模が対称なケースも含む形への拡張、(2)企業の競争形態の違いが2国間 FTA の形成を通じた貿易自由化にどのような影響を与えるか、の2点を中心に検討することとなった。

研究課題(1)では、非対称市場を取り扱った Nomura et al. (2013) の3国3市場モデルの市場規模のパラメータの設定を変更することで、対称的な市場のケースも扱えるようにしたうえで、各国の市場規模の差異が FTA の形成を通じた貿易の自由化の進展に与える影響に関する考察を深めた。

研究課題(2)では、3国3市場モデルにシュタケルベルグ競争を導入することで、企業の意思決定のタイミングが2国間 FTA の形成ならびに貿易の自由化に与える影響を検討した。

## References

- (1) R. Nomura, T. Ohkawa, M. Okamura, and M. Tawada, "Does a Bilateral FTA Pave the Way for Multilateral Free Trade?", *Review of International Economics*, vol.21(1), pp.164-176, 2013.

### 4. 研究成果

研究課題(1)では、これまでの研究成果を踏まえ、各国の市場規模の差異が2国間 FTA の形成を通じた貿易に自由化に与える影響について検討した。当初は対称的な国々の間で FTA が結ばれてきたが、近年は非対称的な国々の中での FTA の形成が増加している点に着目し、市場規模が同一の2国と市場規模が異なる1国からなる3国3市場モデルを用いて、上述の問題を検討し、次のような結論を得た。対称的な市場を有する2国の FTA が形成されているとしよう。(1)3国の市場規模が似通っている場合には、既存の FTA に域外国を加える Expansion of FTA によって MFT は実現するが、2国間 FTA を逐次的に形成する Overlapping FTAs では MFT は実現しない。(2)域外国の市場規模が FTA 締結国よりも小さい場合、Overlapping FTAs によって MFT は実現するが、Expansion of FTA で MFT が実現する場合は域外国の市場規模に依存する。(3)域外国の市場規模が FTA 締結国に比して大きい場合、MFT は Expansion of FTA では実現する可能性があるが、Overlapping FTAs では実現しない。(4)域外国の市場規模が非常に大きい場合、MFT はいかなる FTA の形成のあり方でも実現しない。以上の結果は、学会発表を経て、雑誌論文に纏められている。

上述の3国の市場規模が完全に対称的な場合には2国間 FTA に域外国を加える Expansion of FTA のみによって MFT が実現するという結果(1)は、3国の市場規模が完全に異なる場合には Overlapping FTAs のみによって MFT が実現するという Nomura et al. (2013)の結果と対照的である。こうした結果は、2国間 FTA の形成が MFT を導くかは、FTA の拡大が逐次的形成かだけでなく、各国の市場規模の差異にも大きく依存することを示唆している。

研究課題(2)に関しては、これまでの研究成果に基づきながら、競争形態の違いが2国間 FTA の形成を通じた貿易自由化にどのような影響を与えるかを3国3市場モデルを用いて検討し、次のような結論を得た。(1)企業が各国市場でクールノー競争を行っている状況に比して、企業が各国市場においてシュタッケルベルク競争を行っている場合、2国間の FTA の実現可能性、および MFT の実現可能性は低下する。(2)クールノー競争が行われている場合と同様に、シュタッケルベルク競争が行われている場合においても、各国の市場規模が異なるとき、2国間 FTA が重層的に形成される場合(Overlapping FTAs)には MFT は実現しうるが、既存の FTA に新規加盟国を加える場合(Expansion of FTA)には MFT は実現しない。(3)各国の市場規模が同じ場合、競争形態にかかわらず、Overlapping FTAs では MFT は実現せず、Expansion of FTA の場合のみ MFT が実現する。以上の結果は、学会発表を経て、雑誌論文に纏められている。

また、当初の研究目的(2)に繋がる取組として、2輸出国と1輸入国からなる3国モデルを用いて、FTA の形成が各国企業の技術選択(費用削減的研究開発投資活動)に与える影響も検討した(雑誌論文)。

## References

- (1) R. Nomura, T. Ohkawa, M. Okamura, and M. Tawada, "Does a Bilateral FTA Pave the Way for Multilateral Free Trade?", *Review of International Economics*, vol.21(1), pp.164-176, 2013.

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6件)

R. Nomura, T. Ohkawa, M. Okamura, and M. Tawada, "Expansion of Free Trade Agreements, Overlapping Free Trade Agreements, and Market Size", *Regional Free Trade Areas and Strategic Trade Policies* (eds. by T. Ohkawa, M. Tawada, M. Okamura, and R. Nomura), Springer, 査読無, pp.3-19, 2016,  
DOI : 10.1007/978-4-431-55621-3\_1

R. Nomura, "The Feasibility of Multilateral Free Trade and Mode of Competition", *Regional Free Trade Areas and Strategic Trade Policies* (eds. by T. Ohkawa, M. Tawada, M. Okamura, and R. Nomura), Springer, 査読無, pp.21-37, 2016,  
DOI : 10.1007/978-4-431-55621-3\_2

R. Nomura, T. Ohkawa, and M. Okamura, "Technology Choice, Firm Behavior, and Free Trade Agreement", *Regional Free Trade Areas and Strategic Trade Policies* (eds. by T. Ohkawa, M. Tawada, M. Okamura, and R. Nomura), Springer, 査読無, pp.57-68, 2016,  
DOI : 10.1007/978-4-431-55621-3\_4

T. Ohkawa, M. Hayashibara, R. Nomura, and M. Okamura, "Government

Intervention Brings About Free-Trade Outcomes in the Long Run ”, *Regional Free Trade Areas and Strategic Trade Policies* (eds. by T. Ohkawa, M. Tawada, M. Okamura, and R. Nomura), Springer, 査読無, pp.119-135, 2016, DOI : 10.1007/978-4-431-55621-3\_7

R. Nomura, T. Ohkawa, M. Okamura, and M. Tawada., “ Voluntary Formation of Free Trade Area in a Third Country Market Model ”, *The Region and Trade: New Analytical Directions* (eds. by A. A. Atayal and P. Nijkamp), 査読有, pp.77-88, 2015, DOI : 10.1142/9789814520164\_0004

H. Kurata, R. Nomura, and N. Suga, “ A Chamberlinian Agglomeration Model with External Economies of Scales ”, 『東北学院大学経済学論集』, 査読無, 183, pp.41-56, 2014, <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/research/journal/bk2014/no10.html>

[学会発表](計 2件)

R. Nomura, “The feasibility of multilateral free trade and mode of competition ”, European Regional Science Association, Vienna University of Economics and Business, 2016/08/26, Vienna (Austria)

R. Nomura, T. Ohkawa, M. Okamura, and M. Tawada, “ Expansion of FTA, Overlapping FTAs and Market Size ”, European Regional Science Association, ISEG - LISBOA SCHOOL OF ECONOMICS & MANAGEMENT, 2015/08/28, Lisbon (Portugal)

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

野村 良一 (RYOICHI, Nomura)

立命館大学・経済学部・准教授

研究者番号 : 60465599